

活 用 事 例	宮崎市立国富小学校	水野宗市教諭
活用事例タイトル	自分の気持ちを伝えよう	
対称授業科目/活動	総合的な学習の時間（６年生）	
授業または活動の概要（目的，実施時期，授業の場合教科名や単元名，対称学年，参加人数，ICTの使用局面など）	児童の実態として「自分の考えや思いをしっかりと表現できない（はずかしい，消極的である，内容を整理していない，相手を意識していない）」という点があげられる。その原因として，これまで表現する活動をあまり行っていないこと，伝えたいという意欲に欠けるを感じている。そこで，情報教育の視点より，「さまざまな情報手段を活用して，効果的に表現する」「伝えたいことを明確にして，相手にわかりやすく伝える」ことを目標に，「自分の思いを持った学習活動」を実践することで表現力向上につながると考えた。 伝える活動を計画するにあたり，重要なポイントとして「相手を意識する」「自分の思いを効果的に表現する」「自主的な活動になるような工夫をする」ことが大事であると考えた。卒業を控えた６年生児童において，保護者への感謝の気持ちを伝える活動を実施することで「相手（保護者）を意識し」「自分の思い（感謝）を伝える」ことができると考えた。普段，保護者に対して感謝の気持ちはあるもののなかなか素直に言葉にできない。その思いをＩＣＴ機器を活用し，３０秒程度のクリップビデオにまとめ保護者に伝えることを目標とすることで，児童は興味・関心を持ち自主的な活動を行うと共に，様々な表現方法を習得することにもつながる。そこで，情報を整理，分析し，判断することができる学習活動を計画した。具体的には，６年間で「保護者との思い出がある品物」を考え，その品物についての３枚の写真を撮り，その写真にメッセージを付け加え，ビデオとして制作し，参観日で発表することとした。特に，重点をおいたのは，「どんな画像を撮るか」と「どんなメッセージを考えるか」ということである。	
ICT活用により期待できる効果 ICT活用のねらい	① ＣＭの工夫を捉える ○ 実際のＣＭを視聴し，「短い時間で伝えたいことをきちんと伝える」ためには，「的確な言葉」「映像にあった言葉」「心に残る言葉」を使うことが大事であることを考える場を設け，学習活動の導入した。ゴールのイメージとポイントを整理することができた。 ② ４０秒程度のＣＭ，３枚の写真で表現する ○ 時間と写真の枚数を制限することで，自分の思いをどこに焦点化するかを明確にできると考えた。ただ，品物を撮影するだけでなく，保護者との思い出は何であり，それがどこに現れているのかを考えながら撮影することにつながった。 ③ 画像やメッセージの表現効果を工夫する ○ パソコンを活用することで，画像やメッセージの様々な表現方法ができることを知る。さらに，何度も繰り返し効果を確認しながら活動を進めることができる。その中で，自分の思いが伝わる表現効果を工夫しながら学習を実施できる。	

評価，振り返り（活動の評価や児童・生徒の声など）

最後の参観日で，クリップビデオの発表会を行った。発表会では，ビデオ発表の前に作品に関する思いを話して視聴した。中には，思いが高まり泣きながら話をする児童や自分の子どもの作品に涙する保護者も見られた。参観日後の保護者の感想の中には，「普段言葉では言わないが，考えていることがわかりうれしかった」「他の子どもたちの作品には本当に感動した」「親子で思い出の品物を通して小学校生活を振り返った」などがあつた。実践後の児童へのアンケート結果では，自分の気持ちが上手に伝えられたと答えた児童が75%，作成した作品に満足していると答えた児童が90%であつた。学習を通して概ね満足した結果であつたと思う。特に，十分でないと思っている児童を抽出してみると，上位の児童が多く，作品作成を通して「よりよいものにしたい」「もっと言葉を上手に使いたい」という思いが高まつたと思われる。また，何が難しかったかという問いには「メッセージを考えること（短い言葉にまとめること）」が一番多く，次いで「写真の撮り方」であつた。デジタルカメラやパソコン操作について，難しかったと答える児童はほとんどいなかった。児童にとって，機械操作はそれほど大きな問題ではなく，やはり日頃の学習で培った力が生きるということが，実感できるものであつた。児童の作品を振り返ってみると，3枚の画像に付けるメッセージは「はじめ→中→終わり」という流れを意識しものになっていた。また，3枚の画像も「アップとルーズ」や「角度を変えた取り方」の工夫を行っていた。伝える活動において，一番大事なものは「思い」である。今回，児童が「保護者への思い」をしっかりと持って活動に取り組めた。「思い」を十分に持てる学習活動を計画・実践することで児童の表現力は向上する。